

攻め の 西表島 幻を 求めて。

西表島のカスマアジは幻なのか。

大海原の中、大群に出逢うだけで
奇跡とも思えるカスマアジ。

昨年に引き続き、その大群を探して、
オガンを攻めた。

また、25年ぶりに西表島に
姿を現しているというブラックマンタや

白化を乗り越え生き残った珊瑚にも出逢った。

そんな、豊かな西表の海に暮らす

生き物たちに迫った。

Attack
the Iriomote island
島



01, 天気の良い時は日向ぼっこも気持ちがいい 02, 仲ノ御神島。「三ノ根」はここからもう少し沖に出る 03, 船の2階は特等席。ただし風が強いので注意

可能な限り、オガンの「三ノ根」に挑む。

オガン（仲ノ御神島）でのダイビングにこだわりを持ち、4隻の船を駆使して、可能な限りオガンに船を出すという、ダイビングチームうなりざき西表店。一年間のうち、2ヶ月は冬季休業、4ヶ月は風や波の影響でオガンには行けないというが、2016年はその中でも約60日オガンへ船を進めている。オガンへのこだわりが強いからこそ、天気が許す限り行く、という姿勢が見て取れる。

今回取材班は、全5日間の日程の中、3日間オガンへ向かうことができた。計8本、うち7本は「三ノ根」を潜った。

「三ノ根」は、西表に足しげく通うリピーターを虜にする、カスマアジ（以下カスミ）やイソマグロの群れに出逢うことができる、一番人気のポイントだ。

うなりざきの船が停泊している港、通称うなりざき湾からオガンまでは約1時間～1時間半。オガンには5つのダイビングポイントがあるが、中でも一番人気はカスマや大物が狙える「三ノ根」。オガンの中でも特に「三ノ根」へ向かうことは、ダイバーだけでなく船長も緊張する。たとえ海面は風であっても、ガイドが潮見した段階で潮の流れが速ければ、せつかくオガンまで来ても「三ノ根」には入ることができないためだ。つまり、オガンまで来られるだけでも運がいいが、「三ノ根」に潜れるというのはそれだけで格別にラッキーなのだ。



カスミアジ1000匹、突如出現！

取材1本目。メインガイドの森脇純一さんに連れられて、「三ノ根」に入った。潮はゆるい下げの状態で、「浅い根」からエントリーして、カスミの出る「カスミガセキ」まで泳ぐ。「三ノ根」に潜るとき、ガイドの森脇さんは、水を入れたペットボトルをぶら下げるが、そのペットボトルの中を空気に交換したら、カスミへ向かってロックオンだ。

カスミの姿が全然見えない中、岩礁の合間を縫って進んでいると、突然

森脇さんがそのペットボトルを取り出し、叩き出した。“ボンボンボン——”

よく見ると、森脇さんの少し前にカスミが去っていく後ろ姿が見える。ペットボトルの首にビックリしたカスミが一度こちらに戻って来るので、そのタイミングを狙って撮影するのだが、今回はあえなく逃した。

その後はカスミに出逢うことはなく、時間切れ。安全停止後、水面で談笑していると突然「うわっ、出た！」と越智カメラマン。タイガーシャークでも出たのかと一瞬ひるんで水中を見ると、水深7mくらいのところ一面がカスミの海!! 「うわ、カスミ!!」と急いで潜るも追いつけなかったが、越智カメラマンは今まで一番画角いっぱいのカスミの写真が撮れたと言っていた。

Encounter with the Kama



ゴソゴソとした不気味な
岩礁を進む

美しくも不気味さ漂う「三ノ根」。

今回潜った「三ノ根」は、終始透明度が良く、潜っているのは気持ちがいい海だった。しかし、そびえ立つ岩礁に目をやると太陽の光で陰影が増し、その隙間からはなにかが突如出現しそうな恐々しい雰囲気も醸し出されていた。

カスミを狙って潜ることもある「限界」のあたりでは、不気味な形の岩礁が所狭しと配置されている。その岩礁を隠れ家にでもするように、2m級のマダラエイや1.5m級のポテトコッド、ナポレオン、コブシメなど多くの生き物が生息している。

その上空には、太くてたくましい体のバラクーダとイソマグロのコラボ。時折、エラブウミヘビに後をつけられることもある。今回もなんだか視線を感じて振り返ったら、4匹のエラブウミヘビが背後に迫っていた。

幻のカスミにたとえ出逢えなかったとしても、ポテンシャルの高い「三ノ根」はその景観に生物にと飽きることがない。



01、流れが強い時にはガイドと同じ道を通り離れないように
02、突如現れた1.5m級のマダラエイ 03、エラブウミヘビも自由に泳ぎ回る 04、コブシメが1匹で寂しそうに漂っていた



あちらこちらからスポットライトを浴びているよう



01



02

光のオアシスで、つかの間の休息。

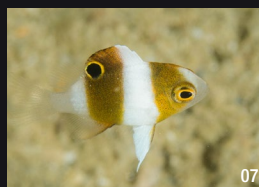
天気が良ければ、ぜひオススメしたいのは、オガンの「光の洞窟」。越智カメラマンも西表の中で一番好きだというこのポイントは、まず、洞窟に入って見上げるクレバスが美しい。細い隙間から強く差し込む日差しは、光のシャワーを一面に作り出す。その光のベールの中を泳ぎ、撮影した。

「三ノ根」の激しいダイビングから打って変わって、深呼吸をしながらゆったりと泳ぎたい、オガンの癒しの空間だ。



03

01, 白砂が美しい通路を進んでいく 02, 光に導かれて、天まで昇っていきそう 03, 強い光のシャワーがゆらゆらと煌めく



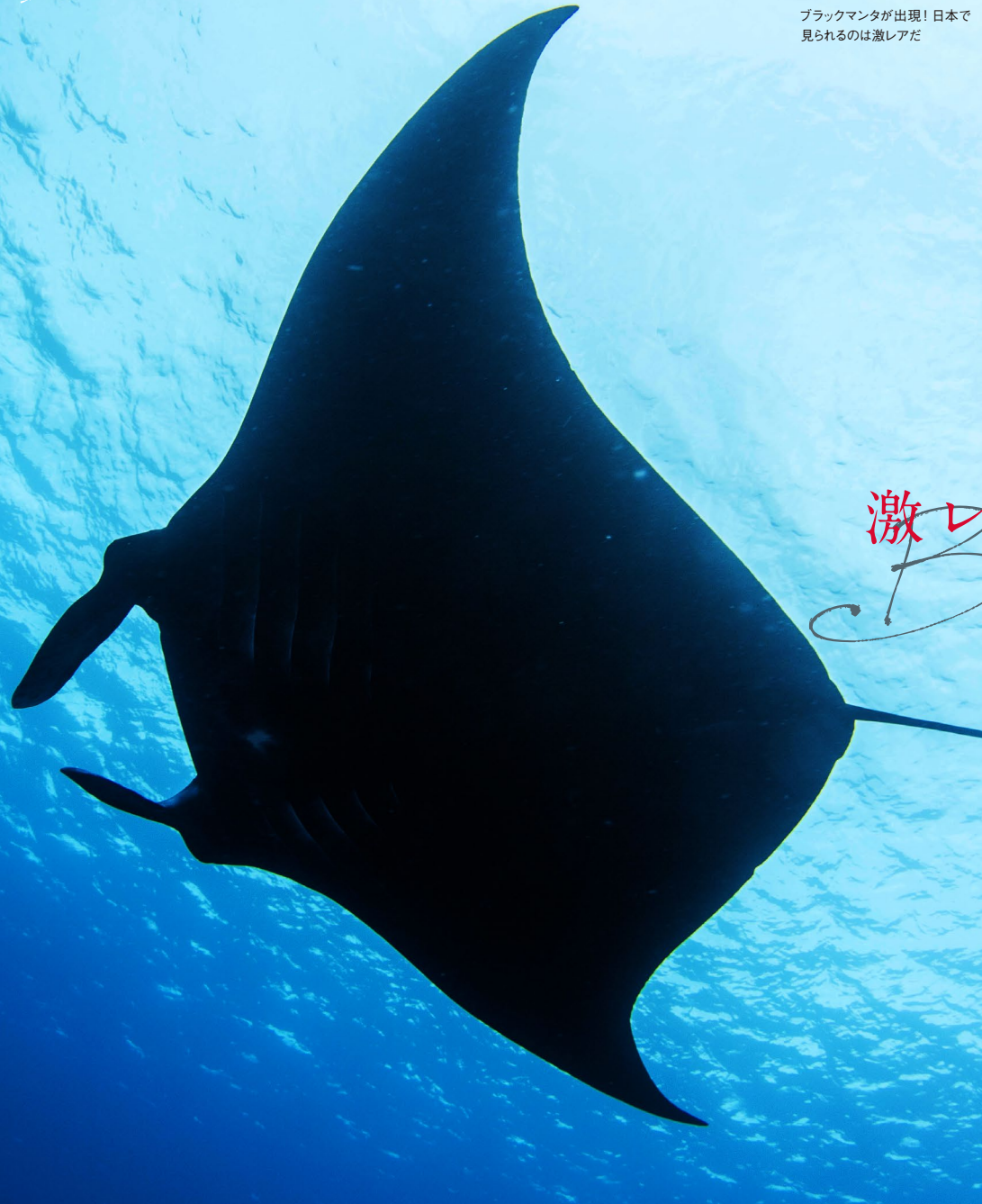
白化を乗り越えた、力強き珊瑚の海。

水温の上昇や去年は台風が少なかった影響もあり、今年は西表島の珊瑚にも白化現象が見られていると森脇さん。それでもまだ、残っているとはいくつかあるというので、水面休息中に覗いてみることにした。干潮時だったので珊瑚の一部は水面から顔をのぞかせている。モデルが写り込むスペースはないだろうかと越智カメラマンが一人で撮影に向かった。ガレてしまっているのではとあまり期待はしていなかったが、撮影から帰った越智カメラマンの表情はほくほくしていた。「すごくきれいだったよ」

そこに棲む生物で、今回特に越智カメラマンが楽しそうに撮影していたのは、尾ひれが長いスズメダイたち。成魚よりも幼魚の時に狙いたい、マルスズメダイやモンズズメダイは、ひらりとしなる尾が美しい。また、琉球列島が分布域のダンダラスズメダイの幼魚もぜひ西表島に来たら狙いたい種だ。

01, 発色美しいアカネハナゴイの群れ 02, スミレガハナダイの幼魚 03, 真っ赤なハダハカオコセ 04, 太陽にむかってまっすぐに伸びるエダサンゴ 05, 火の玉みたいなモンズズメダイの幼魚 06, どこ海外だ!? というくらい生息していたナンヨウハギ 07, 珍しい柄のダンダラスズメダイの幼魚 08, ネオンテングダイの口内保育 09, タタリ神のようなキンメドモの群れ 10, 尾びれが美しいマルスズメダイの幼魚 11, 青がきれいなアマミスズメダイの幼魚

ブラックマンタが出現！日本で
見られるのは激レアだ



激レア、ブラックマンタを狙え！

日本で観察されるのは珍しいという
ブラックマンタが、近年西表島付近で
たびたび目撃されていると聞いていた
が、なんと取材班も「鹿ノ川中ノ瀬」
というマンタポイントに潜った際に遭遇
するという幸運に恵まれた。

うなりざきの社長・大島佐喜子さん
によると、西表島にブラックマンタが
現れたのは25年ぶりとのこと。しかし
今年はこの日が3回目だという。1回目

は3月3日、2回目が4月23日。すべて
同じポイントで2本目のダイビングのと
きだという。石垣島のダイビングサー
ビスに聞いてみると、黒島の南側でも
ここ3～4年ブラックマンタが観察され、
その中の1枚で1月28日に撮影された
個体が、今回越智カメラマンが撮影し
た個体と同じだったことが判明した。

この海域に何枚のブラックマンタが
生息しているかは定かではないものの、
少なくとも今年の1～5月の間、同じ海
域に同じ個体が生息しているのは間違
いなさそうだ。

今後、ブラックマンタが西表島で随
時観察できる日が来るのかもしれない。



01、マンタの行く道を塞がなければ、逃げることなく近
寄って泳ぐことができる 02、マンタが頭上を通るときは
できるだけ泡を吐かない方がマンタは逃げない



海から見たショップと宿泊施設
イルマーレ



01



03

まだ見ぬ海を攻め続ける、うなりざき西表店。



04



05

01, ミスうなりざきに乘ってオガンを攻めた 02, 若手のスタッフが多いダイビングチームうなりざき西表店 03, 船までは浮きに乗って綱を手繰り寄せ移動。この共同作業も楽しい 04, ランチには甘い西表パイナップル 05, 島の子供に手を振る森脇さん 06, 青空に映える満開のひまわり

上原港から車で約10分のところに位置するダイビングチームうなりざき西表店。オープンして32年の老舗ダイビングサービスだ。62フィートの大型船3隻と42フィートの小型船1隻の計4隻を駆使して、ゲストをチーム分けし、可能な限りリクエストに沿うように対応してくれる。

オガンでのダイビングにこだわりを持ったスタイルが人気で、オガンをリクエストするリピーターが後を絶たない。

若手のスタッフが多いので、船の上はいつも賑やか。一人でダイビングにきても気後れすることなく楽しめるうえ、

ダイビングを通して友人を作る人も多いというのが、ダイビングチームうなりざき西表店の特徴。「ここに来れば誰かがいる、誰もいなくてもまた友人が作れる」、そういうダイビングサービスの雰囲気がとても居心地がいい。

宿泊施設は、全室オーシャンビュー40室にレストラン併設のイルマーレと、西表バイン牛のBBQコースが楽しめるヴィラがあり、多くのダイバーの受け入れが可能。

お土産には、西表バインがオススメで、取材班2名のお気に入り、特産のオオタニワタリの細巻と牛にぎり。



06

ダイビングチーム
うなりざき西表店

沖縄県八重山郡竹富町上原10-172
Tel.0980-85-6146 info@unarizaki.com
www.unarizaki.com/iriomote